

2005年 反グローバリズムJR春闘

賃上げ1,500円統一要求！

労連加盟組合は賃金カーブ維持プラス500円

JR総連は2月4日、東京・目黒雅叙園において第27回定期中央委員会を開催し、当面の闘う方針を決定しました。05春闘では職場からの取り組みを基礎に、ベア1,500円の統一要求を掲げJR春闘を創りだします。また、労連加盟組合では賃金カーブ維持プラス500円を、定期昇給制度がないところでは5,200円プラス500円を目安とし、共闘の追求や未組織労働者への支援を積極的に取り組みます。企業業績の回復傾向に反して労働者の負担が増加する中、連帯と共闘を創造し、日本の労働運動を牽引する反グローバリズムJR春闘をとともに闘いましょう。

第27回定期中央委員会 小田委員長挨拶（抜粋）

昨一年間、日本政府・警察当局による大弾圧に対して美世志会を先頭に、JR総連は総団結で闘ってきました。昨年の「JR浦和電車区事件から2年・公正な裁判を求める11・1集会」の成功やILO勧告に示されるように、反弾圧の闘いは大きな前進を勝ち取ることが出来ました。弁護団や支援する会の皆様のご指導とご協力に心からお礼と感謝を申し上げます。

昨年10月に発生した新潟・中越地震では組合員やOB会員にも甚大な被害を被りました。『自然と人間』誌2月号に掲載された脱線した『とき235号』の乗務員の証言を読み、そのときの衝撃と恐怖の中での責任の重さと、乗客の安全に努めた姿に感動しました。JR各線区は、JR東労組とJR貨物労組、および各会社の努力により早期に復興しました。さらに現在も地域での復興作業が続けられています。一方、スマトラ沖地震の大津波によって30万人を超える人々が亡くなりました。これにも10万ドルの支援金を届けてきました。この支援に、タイ鉄道労組のソムサク委員長などからお礼が伝えられました。

今年ブラジルのポルトアレグレで開催されたWSF2005（世界社会フォーラム）では「もうひとつの世界は可能だ」というスローガンのもと新自由主義的グローバリズムに反対して15万人が集まり、世界の労働者が闘いを再確認しました。また、ICLS（国際労働者交流センター）創設が採択、結成されました。さらに9条連のワークショップでは、世界に向けて9条の持つ重みと平和が訴えられました。この2年間、私たちは反グローバリズムを掲げ将来を見据え闘ってきたが故に、ILO勧告も引き出せました。また、ICFTU（国際自由労連）世界大会でも、新自由主義的グローバリズムに反対する共通課題が明確に示されたといえます。

えん罪JR浦和電車区事件では、支援する会の会員が2万名を超え、ジャーナリストの皆さんなどにより書籍『鉄道の7人』『冤罪』が出版され、かつて松川事件がえん罪として世に広まった『真実は壁を越えて』と同様、労働組合への弾圧の真実が世に広まっています。さらに、反弾圧の闘いを強力に進めていきたいと思えます。

春闘は加盟組合ベア1,500円を、労連は賃金カーブの維持プラス500円を掲げ、中小地場との共闘を追求しつつJR春闘として闘います。国鉄改革から18年の検証や整備新幹線問題、JR西日本の賃金制度やJR東海の社員運用の変更などの課題もあります。さらに日本テレコムやJRシステム、鉄道総研などの将来展望の検討も課題です。

敗戦から60年。戦争とファシズムの時代へと逆戻りした昨今、映画や観劇で見た120年前の秩父や武相困民党の蜂起に、怒りと志への熱い感動を覚えました。改憲の闘いの山場に対し、執行委員会として闘う決意を表明し、挨拶とします。

「委員会宣言」は、JR総連ホームページをご覧ください。

シンポジウム

司法の反動化を考えるジャーナリストの会主催

おかしいぞ!

警察・検察・裁判所

反弾圧に立ち上がったジャーナリストと市民

ジャーナリストや雑誌の編集者が呼びかけ、司法の反動化を考えるシンポジウム「おかしいぞ！警察・検察・裁判所」が2月14日、東京文京区シビックホールで開催されました。

集会では「警察の不当逮捕の実情 各運動・市民団体」「警察の不正経理と公安警察の実態」「検察と国策捜査」という3つのテーマでの報告と、ディスカッションがおこなわれました。

「戦争反対」のピラを配布していただけで住居不法侵入で長期勾留・起訴されるような異常事態。JR浦和電車区事件のえん罪を通じたJR総連・JR東労組への弾圧（美世志会から上原さんが報告）。立川反戦ピラ事件の無罪判決直後の日本共産党を狙った「葛飾ピラ逮捕事件」。ともすれば偶発的に見えるそうした出来事の背後でうごめく公安警察の実態が第1部でそれぞれの当事者から報告されました。

第2部では、そうした弾圧の報告を受け、評論家の鈴木邦男氏とジャーナリストの大谷昭宏氏との対談で弾圧の実態と背景がさらに浮き彫りにされました。併せて北海道警の裏金作り、知られざる公安警察の暗躍や人事・金・勢力実態なども各氏の報告と対談で語られました。



第3部では元大阪高検公安部長の検察の裏金作りの告発で逆に実刑判決を受けた三井環氏と、司法記者として活躍した魚住昭氏から、内閣指導による国策捜査の危険性や、裁判所が簡単に逮捕状や捜査令状を発行しているなど裁判所の独立性の問題性が指摘され、「真実を追究することをしない検察は機能低下している」と辛辣な批判がおこなわれました。

微罪がでっち上げられたり、告発したものが逮捕されるなど、日本での警察・検察・裁判所の事態は底流では、新しい体制づくりが行なわれているのではないかとの問題を考えさせられました。3時間あまりのシンポジウムには400名を超える市民が集まり、企画した「創出版」の篠田博之氏からは、「思想・団体の枠を超え、ぜひ継続してやりたい」と次回開催に向けた反弾圧の連帯が呼びかけられました。

デッチ上げ書類送検を許さない!

東京駅事件の書類送検に抗議する

警視庁公安二課は、「暴力行為等処罰に関する法律違反被疑事件（いわゆる東京駅事件）」で、でっち上げたJR総連役員3名を1月26日に書類送検しました。

この「事件」は、2002年6月にJR東海労組組合員の配置転換に抗議するピラ配りで「暴力行為があった」とでっち上げられた事件です。

JR浦和電車区事件の翌年、公安二課はこれを暴力事件とすることで、JR総連の事務所など32カ所を5回にわたり家宅捜索、665点もの事件と関係のない資料などの押収をおこないました。

公安二課は、これまでJR総連の「事件」をマスコミに大々的に宣伝してきました。しかし、「東京駅事件」の時効が5ヵ月後に迫ったこの時期にあえて書類送検しました。これは、ILOの勧告や告発、国会議員を通じた追及など反弾圧の運動の広がりにより、弾圧が不当であることが明らかになることを恐れ、マスコミにも知らせず、秘かに書類送検したといえます。

JR総連は今回の東京駅事件での書類送検を断じて許さず、JR東海労と共同で声明を発するとともに、反弾圧の闘いをより一層強化していきます。

(抗議声明はJR総連HPをご覧ください)

発刊!

武藤 功 著

『冤罪』

JR浦和電車区事件をめぐる

2月15日発刊(発行:出版研)

歴史はこの権力の強権にたいして有罪を宣告し、彼ら反戦活動家やJRの労働者たちにたいしては無罪を宣告するであろう。(著者)

《目次》

ある朝、突然に 不可解な警察の捜査姿勢 労組「グリーンユニオン」の策動 異常の極点・三四四日の勾留 公安警察の言う「革マル」問題とは何か 労働運動の生命としての「言葉」 誤起訴にいたる構造 検閲国家への道 ILO勧告の意義 インタビュー対談 非暴力・平和のすすめ—松崎明・武藤功



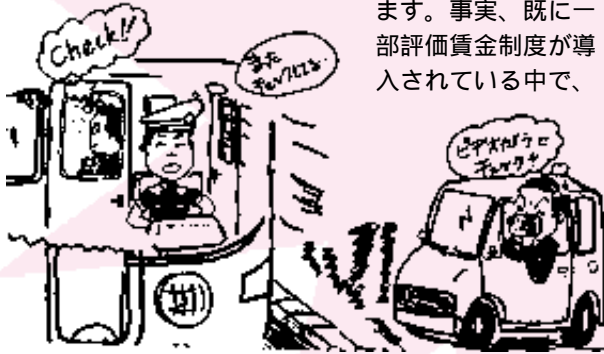
定価: 2,100円(税込)

鉄道輸送労働への「評価賃金制度」導入反対！

一部の「勝ち組」大多数の「負け組」をつくらせない！

JR西日本は新しい賃金・昇進制度を来年4月から導入することを昨年12月16日、各労働組合に提案しました。この制度では、現場長の「評価」により昇給(減給)がおこなわれ、年功制による基本給の上昇は完全に廃止されます。また昇進試験に不合格の場合は、毎年の昇給すらなくなります。

この提案に対し、「最大」労組であるJR西労組(JR連合)幹部は、「がんばった者が報われる制度だ」と諸手を挙げて歓迎。会社の人件費削減の意図や裁量・評価の問題などには触れず、組合員へのアンケートに表れた「評価に問題がある」とした声をも封殺しています。事実、既に一部評価賃金制度が導入されている中で、



運転士のミスで「アラ探し」で昇給の「評価」が決められる...!?



各地でおこなわれているJR西労の一斉抗議行動は9回にものぼる

いくら無事故でもプラス評価がされなかったり、社員の自殺も発生しています。また、JR西労組組合員からの不満の声は、JR西労に殺到しています。

安全を旨とし、経験工学が大切な輸送業に社員の競争原理を持ち込むことは、安全上大きな障害となるばかりでなく、組合員間の競争や分断がおこなわれ、少数の「勝ち組」と大多数の「負け組」をつくります。

JR西労は、安全性や職場環境を守るためだけではなく、組合員相互に思いを馳せ、労働者的な良心で評価賃金制度導入の問題性を西労組組合員にも広め、評価制度導入に反対を訴えています。

JR東海でも大幅な賃金・労働条件の改悪が...

JR東海は、運転士への昇進を単なる人事運用に変更し、駅や車掌へ相互に配属し、さらに乗務手当の削減を4月から実施するという提案をおこないました。会社は東海ユニオン(JR連合)などとは早々と妥結しましたが、生活設計の問題や手当削減に大きな不満が出ています。

乗務労働は特殊な知識や技術が必要です。本人の意向を問わぬ「使い勝手のよい人事運用(配転)」は、安全性からも問題があります。またJR東海労の組合員

の8人に1人の割合で不当なボーナスカットがおこなわれている実態から見ても、会社は人件費の削減だけでなく、人事運用に労組差別を持ち込むのは必至です。

企業によるあくなき利潤追求と物言わぬ社員づくりが、制度の導入を通じ労務管理の強化とあわせておこなわれようとしています。JR東海労組合員も、国鉄改革を担った精神で、この制度導入反対に立ち上がっています。

JR東海労 <http://www.geocities.jp/jrtoukairou/>

新刊対談集『鬼の闘論』 2月25日 創出版 発刊!

松崎前顧問と鈴木邦男さん(一水会顧問)の語り下ろし対談集が2月25日に発刊されます!

いよいよ、時代の変革者!ともかく黙ってはいけぬ。民衆が自らのこころを持たなければならない。平和を実現するための実践的な意思を示さなければならない。左右両極の論客だった2人が、現状を憂えて変革を説く対談集!

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 第1章 公安警察とメディアの責任 | 第2章 ナショナリズムと愛国心 |
| 第3章 護憲か改憲か イラク戦争と自衛隊 | 第4章 民主主義と戦後革新の限界 |
| 第5章 時代を変革する力はどこから生まれるのか | |



定価: 1,575円

